

映画「幸せの経済学」感想まとめ

2019.12.18

(一社)消費者市民社会をつくる会・ASCON

上映日時:2019年12月10日(火) 17:15~18:25

※「SCON2019年度定時総会」記念企画

会場:食品衛生センター(渋谷区神宮前)5階

参加者:51名

「幸せの経済学 the Economics of Happiness」

～人や自然とのつながりを取り戻す暮らし方を探るドキュメンタリー

監督:ヘレナ・ノーバグ=ホッジ(「ラダック懐かしい未来」著者)

配給・宣伝:ユナイテッドピープル



★ローカリゼーションという言葉が印象的でした。SDGs的な考え方で、地域の様々な課題を、人と人とのコミュニケーションからとり戻して行こうということが、世界中で求められているということがわかりました。「日本だけではない、世界中の課題」

★ローカリゼーション、重い言葉です。子どもや孫に私たちのツケを廻してはいけないなと思いました。

★自分の生き方を考えさせられました。ローカリゼーションを自分に引き寄せて考えたいと思いました。本日はこのような映画を見せていただきありがとうございました。

★問いたいことはよくわかります。しかし、自分がラダックで生活したいとは思わない。ローカリゼーションを実現している近代都市があれば知りたいと思います。

★グローバル化の先には、豊かさと幸せが待っているとされた時代があった。今は確かに物はあるが、それで幸せかと言われるとわからなくなる。地域のつながりやゆとりが人の心を豊かにするのなら、もう一度私たちはそれをつくり直さなければいけないと思った。

★グローバル化、近代化と幸せは比例しないのではないかと何となく思っていたが、この映画を観ることで自分で納得できた。物の豊かさ≠心の豊かさ。自分らしさ、地域らしさの喪失。たいへん思うところが多かった。本当の幸せな暮らしとは何なのか、いま一度立ち止まって考えてみたいと思いました。

★全くその通りだと思いながらも実生活はグローバル…。反省すべき点ばかりだった。「経済」という言葉を自分事として考える良いきっかけになる内容だった。根本的なところを見直してみることは大切。ラダックの人々の変わってゆく前の笑顔、あれがたとえ裕福でなくても「幸福」なんだと思う。そうありたいと改めて考える映画だった。ありがとうございました。

★ラダックでは学校教育はどうなっているのか？フェアトレードも大事

★内容はすべて共感するところがあります。ローカリゼーションの価値観と、実生活・実社会の中で実現することは本当に難しいところもあると思います。まるで核兵器をどう無くしていくかのよう。身近なところではスマホの普及による問題が私たちにとっては最大の課題だと思います。

★グローバル化と物質文明は、後進国において不可欠の通過点だと思いますが、アルゴア氏の警告が現実化しないためにも、地球温暖化の対策やサステナビリティの実現に向けて一度立ち止まって考えることの重要性を再認識させる映画でした。

★持続可能な社会が緊急課題とされている現在、問題の根幹がグローバル化にあることがよく理解できました。現在の地域の問題がこれに基づいて解決していくことが可能だと思えました。

★差別、貧困の根本的な原因を追究した映画だと思った。ローカリゼーションを自分の考えの基本にし

たい！

★ローカリゼーション、人間の原点回帰が必要な時代に入ったと痛感しております。お誘いいただきありがとうございました。

★ローカリゼーションはすでに始まっていると思いますが、グローバリゼーションが悪というのはよくわかりません。環境や多様性も重要ですが、すべての人がどう考え、どうつながるか次第です。自然に戻る、文明をもとに戻すと誤解を与えてしまう印象を持ちました。

★・グローバリゼーションがもたらした負の側面(地域文化の破壊や精神的孤立)は確かにあり、特に途上国からの資源・エネルギー等の搾取によって発展してきたことは事実だろう。・一方、グローバリゼーションの進展により、医療体制やインフラ等が整備され、社会福祉が向上するといったポジティブな側面があり、その恩恵を地域住民が享受してきたこともまた事実ではないか。・経済をローカライズする一方、国際協力はしていくというのはいささか非現実的な印象を持った。・食についてもエネルギーについても、地産地消を志向していくことは良いと思うが、その国・地域で獲得できない資源が存在することも現実としてあるので、そのバランスのとりの方が重要なのだと考えさせられた。

★物心面での豊かさを得るのにローカリゼーションが大切だとわかりましたが、ローカリゼーションするには・行政を巻き込んだ仕組みづくり(インフラ)・豊かさを実感することが重要だと思います。ローカリゼーションのメリットはわかりましたが、デメリットはないのでしょうか？いいことづくめなのではないでしょうか？

★ローカリゼーションとは「農業に戻れ」運動なのではないでしょうか。地域農業が雇用を生むということですが、一人で何百トンもの作物を創る大規模農業に生産性の低い小規模は勝てない。まして日本の今の農業です。長距離輸送がエネルギーを浪費している、これも全ての使用エネルギーに対してどのくらいの浪費なのでしょう。映画というメディアのため仕方のないことなのでしょうが、情緒的で科学性が低い。本当のローカリゼーションを見えなくしている心配が残りました。

★地域経済主義、里山経済など、日本にも同様の活動があります。現在、大量生産、大量消費、大量廃棄の中で暮らす我々はどのように対応すべきか考えさせられる映画です。

★「豊かさ」や「幸せであること」について改めて考えさせられる映画でした。ローカリゼーションで思い浮かんだのは、三宅島の島民の暮らしでした。それぞれの家には「苗場」と呼ばれる小さな畑があり、葉物やいも類をつくります。海が荒れて食料が届かない日も続いても大丈夫のように島民の知恵だと思いますが、これからこんな家が都会でも増えていけばいいと思いました。

★グローバリゼーションと国際社会のあり方を見直す必要があること、地域社会・文化を基礎に人々が学び自立すること、多くの気づきを得られました。また、利便性や経済発展を否定はせず、起きている社会課題に目を向け、どう解決するか自分たちで考える姿勢に感銘を受けました。一方、資本主義を冷静に見つめ、事実にもとづき評価することも

必要だと感じました(etc.格差、飢餓人口)。個人的にはアイデンティティの喪失や消費生活への埋没はグローバリゼーションが原因というよりは「教育」の問題負だと思います。そういう意味において国家(政治)ができることは多いはずですし、個がどうやって国家に関わっていくかが大切な時代になるのではないのでしょうか。心の視座を持って来年は過ごしたいと思います。ありがとうございました。

★とても一言では書ききれないが、自分の今の生活を改めて考えるきっかけになった。「地産地消」で全てをまかなうことはできないが、「ローカリゼーション」という選択肢もあるのだということ子どもたちに伝えていく必要がある。「自分たちの手で変えていく」と自覚することが大事だと思った。

★日本では今、ポツンと一軒家、ダッシュ村など、TVで高い視聴率を稼いでいる。ノスタルジアだけで



【SDGs・目標12】つくる責任 使う責任

ない、人のつながり、やさしさ、自給自足の努力が人々に受けていると思う。戦後まもなく道州制による地産地消をベースにした社会が唱えられた。今も検討は続いているだろう。ローカリゼーションと
はいいい言葉を教わったと思う。

★自分がどのくらい先までの持続可能な社会を考えているか…胸にささった。普段から環境配慮しているつもりになっていたかもしれない。エネルギーも作物も地産地消と言われてきているが、「ローカリゼーション」をキーワードにあらためて考えて行動につなげることにしていきたいと感じた。

★急激な近代化をターゲットにした、非常にメッセージ性の強い映画でした。技術の発展が問題のキーワードと感じていたが、「グローバリゼーション」が問題なのだ気づかされる機会になった。1人1人がローカリゼーションを、できるところから取り組む必要があると実感した。

★「比較すること」が日々の生活の中で常態化し、人より良くなりた、豊かになりたという意識ばかりが強まってしまった世の中になってしまっている。しかし、環境問題にしても、次世代やその後の子孫への懸念が高まり従来の価値観とは違うものが出てきていることは自分でも実感します。「ローカリゼーションはつながること」という言葉に心を打たれました。心豊かな生活を送りたいと感じています。多くの人がこの映像を見てもらいたいと思います。

★Keyword; GPI 豊かさの指標が必要。資本主義は際限なく成長し続ける経済活動で(??)限界があることは薄々感じていた。我々はいつかそれが止まることを非常に恐れている。ローカリゼーションが一つのすくいのポイントであることを示してくれたと思います。



【SDGs・目標10】人や国の不平等をなくそう

★確かに携帯電話(スマホ)やパソコンの普及により豊かになったかのように見えるが、心の部分は貧しくなっているように思う。顔を見ながらのコミュニケーションができない人が増え、子どもたちの中ではSNSやゲームによるコミュニケーションがますます拡大していくことに不安を覚えます。地域社会の活性化の重要性に改めて気づかされました。素晴らしい映画でした。ありがとうございます。

★巨大な社会をつくるのが豊かで便利な社会ではないということがわかりました。地域に根づいた小さな社会をたくさんつくるのが持続可能な社会をつくるということも

わかりました。高齢化が進む日本において一極集中がすすんでいるように思います。たくさんの小さな社会をつくるためにも地域は頑張っていかなければいけません。

★とても意義深いメッセージを伝えてくれる映画でした。日本は自然に恵まれ水資源豊富な国なのに「日本列島改造論」以後、水や資源消費を10倍以上に増加させてきました。他方で自然災害は甚大な被害を絶えず与えています。最も象徴的なのは東日本大震災と福島原発事故でした。今も数万人の人が故郷に戻れないという信じられない状況におかれる中、膨大な予算が2020東京オリンピックにつぎ込まれています。私たちはこの仕組みを転換させる必要があります。日本の支配層は欧米の真似をしてアジア植民地化と軍事化を追求し破綻を招きましたが、我々には別の選択肢があったことをぜひ考え直し実現させる必要があります。

★「便利」と「豊かさ」を求めることが「幸せ」と感じ(信じ)てきましたが、それにより環境破壊をもたらし、精神的貧しさを導いていると理解できました。ただ、「便利さ」と「脱環境破壊」の両立は考えられないかとも思います。

★”豊かさ”とは、人によって様々だと思います。多様性を認め合うことで「つながり」が生まれ相互に尊重しあえる社会ができ上がることでしょう。今更、多国籍企業を排除することは不可能ですから、いかに上手に地域性を大事にした付き合いが求められていると思います。

★大企業の商品は安心だと思って買っていましたが、食品(加工品)にしても衣料品にしても海外製のものが多く輸送により環境が破壊されていることまで考えが至っていなかったと反省しました。お金があることが幸せではないことも改めて考えさせられました。

★考えさせられる内容であったが、誰もが幸せの経済とは発展が悪なのか？人間のエゴを改めて思う。

★多少、偏りすぎとも感じられる表現もありましたが、概ね理解できました。(出演者のほとんど(1人を除き)が英語を使っていてちょっと違和感がありました)

★個人の力に頼っても変えられないというくだりもありましたが、やはり今やるべきは一人一人が価値観を見直していくことだと感じました。ただ、小売業の給与生活者としては消費を減らすのもむずかしいのですが、よく考えての消費が必要ですね。

★再認識と反省。大変良い映画でした。SDGsの原点では！？

以上

紙上対話しよう！

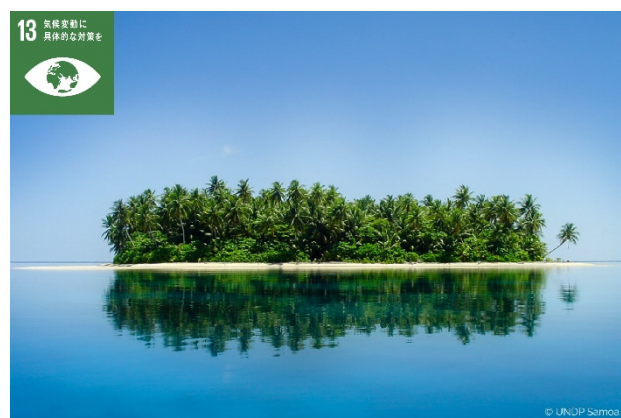
総会記念・「幸せの経済学」上映会にご参加くださったみなさま、誠にありがとうございました。また本当に大勢のみなさまに「感想文」提出にご協力いただきました。ここではすべての感想文をそのまままとめています。それぞれ、個性ある素晴らしい感想です！

どうぞお読みください！ ”紙上対話“として、学びあいを促進しましょう。

ASCONE 代表理事 阿南 久



【SDGs・目標 8】働きがいも経済成長も



【SDGs・目標 13】気候変動に具体的な対策を

※掲載した「SDGs」の映像は、国連開発計画(UNDP)駐日代表事務所のホームページより拝借しました。